

<研究ノート>

ロシアにおける家計調査

竹内 清

1

1905年の革命までの帝政ロシア時代における家計調査は、もっぱら農民世帯の家計を対象とするものであった。⁽¹⁾ 1905年以降1917年までに、モスクワ、ペテルブルグ、キエフ、バクー、その他若干の都市において臨時の労働者世帯を対象の家計調査が実施されたにすぎない。

ここでは帝政ロシア時代における家計調査を概観することにするが、その歴史的な背景として、革命前の帝政ロシア時代における統計機構の発展にまず眼を向けてみることにしよう。⁽²⁾

帝政ロシア時代には現在のような全国的に統一された中央統計局はなかったため、各県などで行なわれた統計調査の結果を全国的なベースで一本に要約しまとめることは不可能であった。ソ連に現在のような全国的な統一のソ連邦中央統計局 (Центральное Статинеское Управление СССР) が創立されたのは1923年7月である。すなわち、1923年7月6日の第2回ソ連邦共産党中央委員会 (ЦИК СССР) 会議で「ソ連邦中央統計局について」(O

(1) А. И. Ежов, *Система и Методология Показателей Советской Статистики*, 1965, стр. 309-326.

(2) これについては、たとえば、

A. Yezhov, *Organization of Statistics in the U.S.S.R.*, 1967

が最も適当であろう。これは

А. И. Ежов. *Организация Статистики в СССР*, 1967

の英訳である。英訳本は、Ежов 教授から出版後早速頂いたが、露語本については現在発注中であり、筆者の手許にないので英訳本を参照する。

Уентральное Статистических Управлении Союза Советских Социалистических Республик) の決議がなされ、人民委員会議 (СНК) と共産党中央委員会幹部会はソ連邦中央統計局制定の委託を受け、1923年7月17日付のソ連邦人民委員会議の法令によって、ソ連邦中央統計局は、人民委員部の資格においてソ連邦人民委員会議により設立されたのである⁽³⁾。したがって、現在のようなソ連邦中央統計局は、1917年の大十月社会主義革命後数年にしてはじめて設立されたのである。

帝政ロシア時代の政府統計は、内務省付属の中央統計委員会、農業土地改良省、商工省、大蔵省、鉄道省の統計部、その他の統計機関によって実施されていた。1811年に警察省は統計部を組織したが、これは1823年には内務省の管轄下におかれ、1852年には内務省統計委員会と改称され、また1857年には中央統計審議会と改称された。1863年には内務省は、種々の統計機関からの代表をそのメンバーとして含むところの統計審議会を作ったが、この統計審議会は各省間の統計センター的な機能の遂行をその任務としたが、各省の統計作業を組織する機関を導入することができなかった。

中央統計委員会は、各県に1つずつ地方統計委員会を設立したが、その任務は、県知事によって作成される年次報告書のための材料を準備し、中央統計委員会によって与えられた仕事——主として収穫についての情報の蒐集——を遂行し、地方生活の諸問題を研究することであったが、これらの課題は十分には遂行されなかった。

中央統計委員会の活動は、その設立の趣旨に反して、人口移動統計、収穫統計、耕作面積および家畜統計の編纂ならびに統計年報の出版などのごく限られた問題領域に限定された。中央統計委員会の農民世帯についての唯一の情報源は、警察および地方行政機関——郷の部局や村の長老など——であり、統計表は郷の係員によって記入された。軍馬センサスは、中央統計委員

(3) Экономическая Жизнь СССР, 1961, стр. 122.

会により家畜省と陸軍省と共同で実施された。

農務省は農業統計の作業を実施したが、これは村の地主、富農、司祭、教師などの間から自発的に協力する報告者を通して収穫に関する情報を集めた。しかしながら、このような収穫統計は、これらの自発的協力の報告者が特別の訓練を受けていないことと国内で極端に偏った分布をしていたことからして、信頼度の高いものではなかった。

人口統計は西欧諸国より後れていて、最初の国勢調査は1897年までは行なわれなかった。これ以前では、17世紀後半と18世紀前半に戸別調査が、主として課税の目的で実施されたが、これらの人口調査は不完全なものであった。人口の自然動態は、正教会を通しての教区登録簿への登録にもとづいて研究されたが、これには出生、死亡または結婚についての記録がなかったので不完全なものであった。

1900年、1908年および1912年には工業センサス、また1916年には農業センサスが行なわれている。

ロシアにおける統計では、ゼムストヴォ統計 (земская статистика) がきわめて重要な役割を果している。ゼムストヴォ統計とは、1870年代のはじめから大十月社会主義革命までの県（時として郡）のゼムストヴォ（地方自治会）において生じている経済およびその他の社会生活の領域の統計調査を指す。⁽⁴⁾ 最初のゼムストヴォ統計調査は、1871年にトヴェル県で、В. И. Покровский により、また同じくヴァトカ県では В. Я. Заволжский によって実施されている。ゼムストヴォ統計は、主として課税対象の登録を確保するために始まったものであるが、土地および不動産は主たる課税源であった。ゼムストヴォ統計は土地の評価から出発した。ゼムストヴォは、農民経済の主たる研究方法として戸別調査を用い、農業についての詳細な統計分析ならびに経済分析を行なった。

ゼムストヴォ統計の主な欠点は、統計調査で用いられたグループ分けが、

(4) Статистический Словарь, 1965, стр. 157-158.

ナロードニキのプチブル経済理論を背景としており経済学的に正当化されていないこと、またゼムストヴォは中央で統一された一定の分析方法なりプログラムに従っていないので、個々のゼムストヴォで一様でなく、したがってそれぞれの結果を全国的に統一的に要約することが不可能であったことである。⁽⁵⁾

しかしながら、ゼムストヴォ統計家によって蒐集されたデータは、当時としてはかなりの規模のものに達し、革命前のロシアにおける農民の社会構造ならびに経済構造に関する情報源としては最善なものの1つである。ゼムストヴォ統計の最大の価値は、統計を編纂する際に払ったところの注意およびその詳細な点である。特に、要約表や多重表をたくみに導入しており、データ処理の点では、現在の記述統計学の観点からみても、きわめてすぐれた点をもっている。ゼムストヴォ統計は、政府統計とは対比的に、一定の訓練を受けた資格のある専門の統計員からその第一次データを入手しており、データの信頼度の点で際立ったものをもっている。

2

次にロシアにおける家計調査の実際を概観しよう。⁽⁶⁾

まず1795年にモスクワで出版された А. Рознатовский の書物 «Продолжение нового земледеления ...» (新しい農業の存続…) が注目に値す

(5) ゼムストヴォ統計に対する評価ならびに批判については、レーニンの諸著作がきわめてすぐれている。たとえば、

В. И. Ленин, Полное Собрание Сочинения, Том 3
(Развитие Капитализма в России, 1899¹, 1908²)

この日本語訳「ロシアにおける資本主義の発展」は、何種類か出版されている。ただし訳語については注意すべき点のあることを忘れてはならないであろう。

(6) ロシアにおける家計調査を知るには次の文献が参考になる。

А. И. Ежов, Система и Методология Показателей Советской Статистики, 1965, стр. 309-326.

В. Крылов, "О применении выборочного метода в земской статистике, Вестник Статистики, № 6, 1955, стр. 53-64.

И. Матюха, С. Постников, В. Самойлов, "Из истории статистики *

る。ここでは農家の構造、輪作や労働の組織に関する実際的な助言とともに農家の収支に関する計算データが引用されている。⁽⁷⁾

次に1801年にペテルブルグで出版の И. С. Захаров の書物 «Усадьбы или новый способ селить крестьян и собирать с них помещичий доход» (付属地, すなわち, 農民を定着させ, 彼等の地主から収入を集める新しい方法) では, 農家の家計について貨幣表現と現物表現での収支についての計算データが引用されている。⁽⁸⁾

1846年に出版の Д. П. Журавский ——ロシアではじめて住民の家計研究の必要性に注意を向けたナロードニキ——の著作 «Об источниках и употреблении статистических сведений» (統計情報の源泉と使用について) では, 種々の所得水準をもった中流階級と下級階級の2つのクラスの家計についての計算データを引用し, それらの支出構造が解明された。Журавский は, 種々のクラスの家計データを作成して比較することが必要だと考えた。彼はまた統計データの蒐集と利用, それについての批判的評価ならびにデータの確実性と信頼度を高めるための機関を設立することが必要だと考え, それについての一連の有意義な考えを述べている。⁽⁹⁾

1870年代に最初の農家家計調査が次の表にかかげる諸県でそれぞれ独立に実施された。⁽¹⁰⁾

* бюджетов населения в СССР," *Вестник Статистики*, №7, 1958, стр. 37-50.

И. Я. Матюха, С. В. Постников, В. А. Самойлов, "Статистика бюджетов населения," *История Советской Государственной Статистики*, 1960, стр. 297-316.

И. Я. Матюха, *Статистика Бюджетов Населения*, 1967.

この外, 上掲のレーニンの諸著作も参考になる。

(7) たとえば, И. Я. Матюха, С. В. Постников, В. А. Самойлов, там же, стр. 297, または И. Я. Матюха, там же, стр. 152-153, 参照。

(8) たとえば, И. Я. Матюха, С. В. Постников, В. А. Самойлов, там же, стр. 297, または И. Я. Матюха, там же, стр. 153, 参照。

(9) たとえば, И. Я. Матюха, С. В. Постников, В. А. Самойлов, там же, стр. 297-298, または И. Я. Матюха, там же, стр. 153-154, 参照。

(10) И. Я. Матюха, там же, から作成。

1870年代における最初の農家家計調査

農家家計調査実施の県	調査実施者
サ マ ル 県	Е. Н. Анучин
チ エ ル ニ ゴ フ 県	А. А. Русов
ヘ ル ソ ン 県	Т. И. Осадчи
ニ ジ エ ゴ ロ ド 県	А. В. Картов
ヒ ョ ル ム 県	Г. М. Манохин

これらの調査は調査の規模は小さかったが（たとえば、ヒョルム県での **Манохин** の調査は18の農家を対象とした）、比較的よく行なわれた調査の部類に属する。また最初の農家家計調査のなかで、1877年にリャザン県で **П. П. Семенов** によって行なわれたものは興味のあるものである。

帝政ロシア時代の農家家計の統計の発達においてゼムストヴォ統計はきわめて大きな貢献をしている。

広範囲にわたる農家家計の抽出調査は、ヴォローネジ県のゼムストヴォ統計家⁽¹¹⁾によってはじめて行なわれた。すなわち、

1885年 24家計

1886-87年 67家計

1887-96年 230家計

の農家家計調査を実施した。彼等は調査の方法論的諸問題の研究に大きな前進を示し、ゼムストヴォの家計統計に大きな影響を与えた。しかしながら、**Ф. А. Щербина** その他のヴォローネジ県のゼムストヴォ統計家はナロードニキの立場に立っており、経済理論的な面では **В. И. Ленин** の強い批判を受けている。

1870年代の初めから1918年までの時代に、ゼムストヴォ統計家は11,500以上の農家の家計調査を実施した。主なものを表にまとめると次のようにな

(11) И. Я. Матюха, там же, стр. 156.

(12)
る。

ゼムストヴォ統計のおもな農家家計調査

調査時期	調査の県	調査家計数
1887 — 1896 年	ヴォローネジ 県	230
1896 — 1897	カルーガ 県	2,417
1897	後バイカル 地方	885
1899 — 1901	ペルミ 県	666
1900	ヴァトカ 県	1,987
1910	ハリコフ 県	277
1911 — 1914	トゥラ 県	655

ヴォローネジ県のゼムストヴォ統計家は、農家の家計調査についての詳細なプログラムをはじめて作成した。ヴォローネジ県における家計調査のプログラムは質問を1,000以上含んでいた。⁽¹³⁾すなわち、

- (1) 性別、年齢、教育および職業別の世帯構成について、
- (2) 労働力の雇用について、
- (3) 農家における恒産の内容と価値について、
- (4) 土地所有とそれに関係した種々の支払、付属地別の分与地の配分について、
- (5) 農作と菜園栽培について、
- (6) 家畜、生産物、飼料その他の価値の年間取引について、
- (7) 家畜の生産力について、
- (8) 食料品と非食料品の消費について、
- (9) 年初と年末における農家の貯蔵品、借金、未納金などについて、

調査が典型農家について行なわれた。

1887年から1896年にかけてのヴォローネジ県のゼムストヴォ統計家は、

(12) たとえば、И. Я. Матюха, С. В. Постников, В. А. Самойлов, там же, стр. 300.

(13) И. Я. Матюха, там же, стр. 165.

300の《典型的》農家を抽出したが、その中230の農家家計についてのデータが整理、作成された。上記のプログラムには、種々の仕事に対する農家の労働支出を解明する諸問題が欠けているのが欠陥であったが、他の県のゼムストヴォ統計の農家の家計調査プログラムに大きな影響を与えた。

ヴォローネジ県のゼムストヴォ統計家は、農家を富農、中農、貧農といった社会的形態によってではなくて、分与地の量といった標識によってグループ分けを行なった。分与地の量という標識は、農民層の分解やその典型化を特徴づけるものではないとして、Ленинによっても批判されている。また典型農家の抽出に当っては、多くの場合、家長が自分の収入や支出について情報を与えることのできるような農家で最初にぶつかったものが抽出されたので、調査結果は上方への偏りをもつことになろう。Щербина自身も、24の典型的農家に関して導き出された平均およびパーセントは、あらゆる場合に郡についての平均およびパーセントより大きいことを認めている。

次にゼムストヴォ統計が農家家計調査において用いた農家の抽出法をみてみよう。

農家の抽出に当って機械的抽出法 (механический отбор) ——これをわれわれの現在の用語で表わせば系統抽出法——がゼムストヴォ統計ではじめて用いられたのは、1896年にカルーガ県のカジョール郡でゼムストヴォ統計家の А. В. Пешехонов によって実施されたものである (その後その他の郡でも実施された⁽¹⁴⁾)。すなわち、カルーガ県の2,400以上の農家——これは全体の農家の5%以上に当る——が、農家の全体の名簿から10の抽出間隔で系統的に村落ごとに抽出された。カルーガ県の統計家は、はじめて農家における農業生産の部門別労働支出や労働の種類についての研究に関する問題を提起した。ところで調査の設計の段階でこのように系統抽出法によって農家の抽出を考えたとしても、実地の段階では自発的協力農家で抽出農家を置き

(14) たとえば、И. Я. Матюха, там же, стр. 159, および В. Крылов, там же, стр. 60 を参照。

かえたりしたので、種々のタイプの農家のバランスが破られた。なお当時においては現在と比較すると標本調査理論ないし系統抽出法に関する理論的水準が格段に低いことを考えると、系統抽出法におけるランダム・スタートの保証とか抽出農家の確保といった問題が調査員自体どれほど認識していたかは疑問であるが、いまからすでに70年以上前に系統抽出のアイデアが実際の抽出調査に適用されたのは高く評価してよい。前記の Крылов も、カーガ県ではじめて適用された系統抽出法が、その後のロシアおよびソ連における科学的な抽出調査あるいは標本調査の発展に大きく貢献したことを高く評価している。

ヴォーログダ県のゼムストヴォ統計は、1903—1911年の農家家計調査に際しては、農家の戸別調査の資料にもとづいて〈典型的〉農家の抽出を実施した。⁽¹⁵⁾ヴォーログダ県のゼムストヴォ統計家は、全般的な農家戸別調査の資料をもとにして、家計調査の結果として得られた、世帯の規模、世帯における就業率、播種についての世帯グループ、家畜の確保など一連の標識に関して、抽出された農家の集団を全体の農家集団と比較して、家計調査の結果の代表性をチェックした。この点、調査データの処理、分析の仕方としてはきわめてすぐれており、現在においても参考になる点が少なくない。

1911年から1914年にかけてトゥラ県での農家の家計の抽出調査に当っては、П. И. Попов の指導のもとに⁽¹⁶⁾《典型的》農家の比例抽出が行なわれた。1911年の調査では、経済状態について貧農、中農、富農といった典型的農家が抽出された。1912—1914年の調査では、種々の副業による農民の仕事、すなわち、出稼ぎ、地方的副業および家内工業などの標識が若干拡大追加された。全体の農家集団における《典型的》農家の種々のグループの割合にもとづいて、調査に必要な農家数が比例抽出された。

ペンザ県では多段抽出法によって農家家計調査が行なわれた点は注目に値

(15) И. Я. Матюха, там же, стр. 159-160.

(16) И. Я. Матюха, там же, стр. 160-161.

⁽¹⁷⁾ する。すなわち、最初は、圧縮された形で農家のすべての基本的な要素を特徴づけているところのいわゆる《圧縮された》農家カードによって全般的な戸別調査が行なわれ、次に3番目ごとの農家が、より十分ないわゆる《簡略な》カード——圧縮されたカードのすべての問題および世帯員の年令、役畜と農器具の装備についてのデータをその中に含んでいる——によって調査された。次に9番目ごとの農家が、さらにより十分な《詳細な》カード——ここでは圧縮されたカードと簡略なカードのすべての問題が理解され、役畜、農器具、建築物の価値についての問題が現われ、収穫、労働力の雇用への支出が計算される——によって調査される。次に27番目ごとの農家が、《特別の》カード——ここでは上述以外に農産物の販売と購買、それに家畜の取引についての問題が含まれる——によって調査される。家計の記録は農家のすべての生産と消費に関するデータを含んでいた。

ペンザ県のゼムストヴォ統計家は、抽出された《典型的》農家の家計データを全体的な農家の戸別調査の結果と関連づけて、抽出された農家集団の代表性を保証するようにした。ペンザ県の統計家は、抽出観察のすべての段階で系統抽出法を適用した。ペンザ県の家計調査は、調査が詳細にわたっている点で特色があったが、そのプログラムは、農家の歴史、世帯の成人の構成、土地所有と土地利用、畑作や輪作の制度、副業の仕事、農業における労働、労働力の雇用、物的価値の取引、貨幣ならびに現物での収入支出業務を明らかにする約50の表を含んでいた。Ленин はペンザ県の統計家の価格査定⁽¹⁸⁾の統計調査プログラムを高く評価している。

次に注目すべき点は、ヴォーログダ県における農家家計調査プログラムで、大人1人を基準として、年令や性によって種々の消費者の消費単位が作成されたことである。18—59才の成年男子の消費単位を1として、他の世

(17) たとえば、В. Крылов, там же, стр. 61-62, および И. Я. Матюха, там же, стр. 162-163 参照。

(18) В. И. Ленин, Полн. Собр. Соч., т. 24, стр. 275-276.

帯員の消費単位の係数が作成された。⁽¹⁹⁾

1— 6才までの子供	0.3
7—13才までの子供	0.5
14—17才までの子供	0.8
16—54才の女性	0.8
55才以上の女性	0.6
60才以上の男性	0.8。

これらの係数はかなり主観的な評価で作成されたが、このような係数は、世帯における食料品の実際の消費についてのデータを分析する際にゼムストヴォ統計家によって広く利用された。

В. И. Ленин は、ゼムストヴォ統計家はナロードニキ理論を背景として平均値やグループ分けの方法を誤って利用し、農家戸別調査や家計調査のデータを誤って分析した、と批判している。

Ленин は、1886年から1887年の間にヴォローネジ県のゼムリャンスク郡、ザドンスク郡、コロトヤク郡、ニジネデヴィック郡で土地所有者についての価格査定調査報告書につけ加えられた67の家計から、役畜の確保という社会的形態に関する標識によって66の農家家計のグループ分けの変更を行ない正しい経済分析を行なった。⁽²⁰⁾

3

革命前のロシアでは、工業労働者世帯の家計については臨時的な抽出調査が6回行なわれただけである。⁽²¹⁾ И. Я. Матюха のまとめている表ならびに叙述をまとめると次のようになる。⁽²²⁾

(19) И. Я. Матюха, там же, стр. 167.

(20) В. И. Ленин, Полн. Собр. Соч., т. 3, стр. 141.

(21) И. Я. Матюха, С. В. Постников, В. А. Самойлов, там же, Стр. 301-302, および И. Я. Матюха, там же, стр. 174-183.

(22) И. Я. Матюха, там же, стр. 175.

労働者家計調査の種類	調査された家計総数	その中 有効家計数	その中		調査指導者
			世帯持ち労働者家計	独身労働者家計	
1. ペテルブルグの工場労働者 (1907—1908年の調査)	1,016	570	307	263	С. Н. Прокопович
2. ペテルブルグの紡織工 (1908年の調査)	50	41	27	14	М. Н. Давидович
3. ヴォガロドの紡織工 (1909年の調査)	340	324	241	83	И. М. Шапошников
4. バクーの石油工業労働者 (1910年の調査)	2,339	2,244	578	1,666	А. М. Стопони
5. セレダーの紡織工 (1911年の調査)	20	18	18	0	В. П. Горицкий
6. キエフの手工業者と工場労働者 (1913年の調査)	750	572	252	320	Г. Наумов
総計	4,515	3,769	1,423	2,346	—

これらの家計調査では、種々の職業の労働者の物質的ならびに文化的な生活水準についてのデータを得ることを目標としたが、バクーでの場合を除いて、若干の県では調査数が少ないために、十分目的を達成できなかった。

1907—1908年の С. Н. Прокопович のペテルブルグの工場労働者の家計調査はアンケート調査法によって実施されたが、資料の作成に際して家計は世帯収入額、借家のタイプ、村との家族関係に関してグループ分けされた。この調査プログラムでは、食事の内容や衣服、履物、帽子、下着類や家具などの非食料工業品についての質問がなかったのは1つの大きな欠陥であった。なおこの調査結果は、たとえば、平均賃金については上方への偏りをもっていた。すなわち、1908年当時、ペテルブルグの労働者の1年間の平均賃金は312ルーブルであるのに、この調査の結果としては約472ルーブルと出てきており、実際よりも1.5倍も高い結果となっている。

1908年の М. Давидович によるペテルブルグにおける紡織工の家計調査は特別の記録係を活用して実施された。⁽²³⁾ この調査で、労働者の食事や住宅条

(23) И. Я. Матюха, С. В. Постников, В. А. Самойлов, там же, стр. 301—302.

件についての広汎な記述された材料が得られた。ここでは世帯は、父と母が働いている、母が働いていない、母だけ（父のない家庭）が働いている、という標識でグループ分けされた。この調査は調査数は少なかったが、С. Н. Прокопович のペテルブルグの労働者の家計調査よりもペテルブルグの紡織工の物質的状态をより正しく特徴づけるものであった。これはアンケート法と特別の記録係による調査法の質の差に由来するものである。

1909年の И. М. Шапошников によるモスクワ県ボゴロド郡の紡織工の家計調査では、30種類の職業の340の家計が抽出されたが、調査の組織に際して、読み書きができて自分の収入と支出について情報を伝えることのできる労働者世帯が抽出されたので、いわゆる典型的世帯が抽出されなかった。ここでは労働者の職業、世帯の大きさ、世帯の支出額によってグループ分けが行なわれたが、家計に関する情報は世帯員に対する質問で集められた。この調査では労働者の賃金と副収入源、種々の食料品の世帯における消費、衣服、履物、光熱に対する支出、それに文化教養費に関する詳細なデータが得られた。

1910年に А. М. Стопани の指導のもとに行なわれたバクーの石油工業労働者の家計調査は注目に値する。この調査は特別の記録員によって世帯に対する質問法で行なわれた。この家計調査に先行して、生産、職業、民族、家族構成や賃金に関する労働者の数量的な相互関係についての統計データが詳細に研究され、これにもとづいて、労働者世帯の抽出に当っては、種々の民族、職業、年収の大きさ別のグループ、家族状態、その他の標識に関して世帯が比例的に表われるように企図された。世帯構成、住宅条件、収入、支出、1年間または最近月の食料について特別の記録員が質問する方式で家計が作成された。

バクーでの2,339の石油工業労働者の家計は、全石油工業労働者の5.7%に当り、この調査では抽出された集団の代表性がかなりの程度に保証された。たとえば、石油工業労働者の年平均賃金が431ルーブルであるのに、調

査の結果は452ルーブルであり、また基本賃金はそれぞれ332.4ルーブルと333.3ルーブルといった具合である。

1911年におけるセレダーの紡織工の家計調査では、В. П. Горицкийは、労働者の賃金、勘定簿の情報などを利用したが、成員1人当り年収額と世帯員の1カ月の賃金額を特徴づけている標識で、家計をグループ分けした。この方法は、世帯の収入と支出についての情報の確実性と充実性の面ですぐれたものをもっている。

1913年のГ. Наумовの指導によるキエフの手工業者と工場労働者の家計調査には職人が大多数を占めていたが、専門の記録員が労働者の世帯員に直接質問して調査が行なわれた。家族状態、民族、住宅条件、支出額を特徴づけている標識に関して家計がグループ分けされた。

4

以上ロシアにおける農家および労働者を対象の家計調査を概観したが、調査対象の抽出に当って利用された抽出法で、現在の標本抽出法の立場から興味のあるのは、すでに触れたように、カルーガ県ではじめて適用された系統抽出法である。すでに述べたように、抽出された集団の代表性を確保するために系統抽出のアイディアを実際に適用したのは、きわめてすぐれた方策である。

ゼムストヴォ統計では、抽出された集団の代表性を確保することの必要性を認識し、比例抽出法の考え方を実際に適用し、農家家計調査の結果を種々の標識に関して全体的な農家戸別調査と比較し、分析結果の妥当性に多大の注意を払っているのは、現在でも大いに参考にすべき点である。またペンザ県で適用された多段抽出の方法も当時としてはきわめて斬新であったが、その後ロシアにおいてはこのアイディアはほとんど活用されなかったようである。

抽出された集団の代表性を保証するために、「典型的」農家を抽出し、特

定の標識に関して全体の集団における分布が再現されるように企図されたが、現在の標本調査理論からすると、当時の典型的農家の抽出に当っては層別無作為抽出が行なわれたのではないので、このような調査結果を全体にまで拡大解釈する場合には、ケース・スタディ的な見地からの分析、解釈はよいであろうが、調査結果の解釈に当っては大きな制約のあることを忘れてはならないであろう——調査数の少ない場合には特にそうである。

次に実際の調査方式としては、当時としては専門の調査員なり記録員を派遣して調査対象に直接質問して調査するところのいわゆる調査員派遣法とアンケート調査法が主なものである。

当時のロシアの文盲率の高さを考慮した場合、一般の調査は調査員派遣法が唯一の調査方式といえよう。アンケート調査法では、読み書きのできる世帯または人が対象となるので調査対象はごく限られたものになるし、全体の代表性の点では著しく劣ったものになるであろう。また回収率の面あるいは調査表の確実性なり信頼度の面で多くの欠陥をもつことになるであろう。

調査員派遣法では、調査員なり記録員が一定の専門的な訓練を受けており、第一次データの質はアンケート法に比べて格段に高いものとなる。ただし、このような調査員派遣法でも次のような重要な欠点⁽²⁴⁾が内在している。すなわち、第1に、それは家計の指標の正確さを保証しない。というのは、農民には記憶によって統計員のあらゆる質問に、しかもなお年間にわたっての正確な回答を与えることは難しかったので、家計の指標は大部分、標準的なものであったことである。第2に、調査を実行し年間の家計を作成するためには、当時の政府が管理のために資料を利用できなかったことからして、長い期間が必要とされたことである。

なお統計員は、家計については、それが構成された後に、技術的ならびに論理的な管理法によってその正確を点検していた。

(24) А. И. Ежов, там же, стр. 309-310.

いずれにしても、帝政ロシア時代の家計調査は、他の西欧諸国に比べてもかなり先進的な性格をもっており、特にゼムストヴォ統計がロシアおよびソ連の家計調査の発展の歴史の中で果たした役割はきわめて大きく、たとえ欠陥を少なからずもっているとはいえ、その積極的な貢献は高く評価してよいであろう。

(25) わが国で内閣統計局によって実施された最初の本格的な家計調査（家計簿記入式による）は大正15年（1926年）であり、それ以前の家計調査は、ロシアにおける家計調査に比べかなり立ち遅れていたことを注意しておこう。